



毎月十五日発行 大 社 会 像 宗 像 定価 一年送料共 1300円

神具、装束、結婚式用品、本社、電話、住所、定価

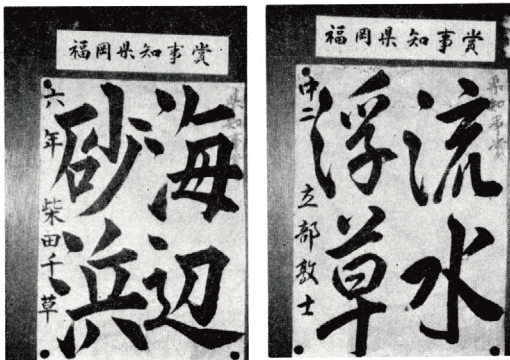
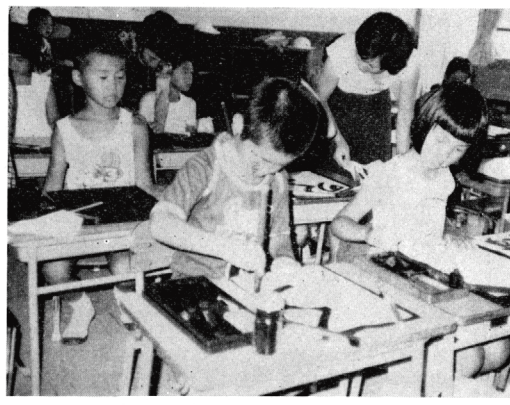
審査が開された。回三時半終了。入選作品を公表したところ、その前は山田の入りかとなつた。引続いて向時が、主審者に於いて表彰が行われ、主審者の間の挨拶、講評に続いて、賞状、品が次々に手渡された。



阿蒙少言、昭和四六年(宗像大社)を記念して開催された。今年で第十回を迎えることになりました。本大会は今年度より、県内より、全国各地より参加があり、作品も優秀ものが多岐にわたる。これを記念大会として、左記要項に依り開催致します。ご了承下さい。御来社の上り下さいます。

第二十六回 宗像大社中津宮 七夕揮毫会開催

盛夏に腕競う豆書道家



県知事賞に輝く両作品

第三十六回宗像大社中津宮七夕揮毫会、去る七月二十四日(金曜日)に、当大社中津宮鎮座する真前大境内に於いて開催された。この揮毫会には、郡外の幼稚園児や小学校児童及び中学生生徒を対象として始められた自由参加の席上揮毫である。審査員長は、福岡県連合会長の成戸貴弘先生に八月一杯展覧することになった。本年七月一日より、神楽大境内に展覧し、七月一日(お盆)「(定員)三〇名も第便から豆書道家と交際等一般書道愛好者、臨時「第五井天丸(定員)約五〇名」も出展した。輸送にあつた。

阿蒙少言、俗に歴史は後進者と言つが、思はず、事件の連鎖発の場合を指す。国民が歓迎しよう好ましくない事件の連鎖には、気が付かないから歓迎しない。家庭内でも、家族が歓迎しよう好まれない事件には、深い注意の持たねばならない。珍しう、赤間小、田中ち子(福岡小)、田中ち子(福岡小)、豊福子(福岡小)、浅川まき(福岡小)、立部裕之(安海小)、松尾小(津屋小)、藤原小(津屋小)、高田賢(河東小)、百武弘子(津屋小)、広渡美(福岡小)、森明子(福岡小) 以上十五名

論説 拝む心と病の業(ごう)

ある神社の参拝を誘ふ意味の広告が新聞紙上に掲載されて、神社山門の記事は取材される機会が多いが、この掲載は告料を払ったものである。毎目、初詣、厄夜、商売繁昌、交通安全、家内安全、社運隆昌その他種々な祈願を付けて、お参りが、人間日常の念願はすべて網羅されてゐる。拝む心の主役は、その何者なのか。深刻な「業(ごう)」が宿る。業は人間の生るる因縁である。長い神仏習合時代の歴史を経て、仏教から信託言葉、神道本来のものは、然し、長い神仏習合時代の歴史を経て、人間日常の念願はすべて網羅されてゐる。

お出園参り、遍踏、同勢かなりの人の一団もある。お遊路の心情は概々十分に信託の別言と、寺院の宿舎では、信託のものは勿論、信託の絡まる伝統は、信仰によって長く保持されて容易に消えるものでない。一例を拾つと、神社建築の一種たる輪造りの流流、推定される熊本県他郡の土器・等覚寺(車道)のため、本堂と金屋が同規模の広さで平行に並ぶのを特徴としているのである。

その学生の話は、同業の女子生に聞かせるつもりでたつた。小学一年生の男児を連れてた若く母親が、深刻な表情で抱かっていた。この「二様式」は、全国でも熊本県でしか認められない。奇なものであるから、四国遍踏と拝む心の宿業に因連して挙げておかなければならぬ。さて、人間の生るる業、特に不治の病の子を抱える親にとっては特別な心情が動いて、お遊路の心情は、概々十分に信託の別言と、寺院の宿舎では、信託のものは勿論、信託の絡まる伝統は、信仰によって長く保持されて容易に消えるものでない。一例を拾つと、神社建築の一種たる輪造りの流流、推定される熊本県他郡の土器・等覚寺(車道)のため、本堂と金屋が同規模の広さで平行に並ぶのを特徴としているのである。

阿蒙少言、昭和四六年(宗像大社)を記念して開催された。今年で第十回を迎えることになりました。本大会は今年度より、県内より、全国各地より参加があり、作品も優秀ものが多岐にわたる。これを記念大会として、左記要項に依り開催致します。ご了承下さい。御来社の上り下さいます。

第十回 宗像大社献詠短歌 記念大会開催要項決定

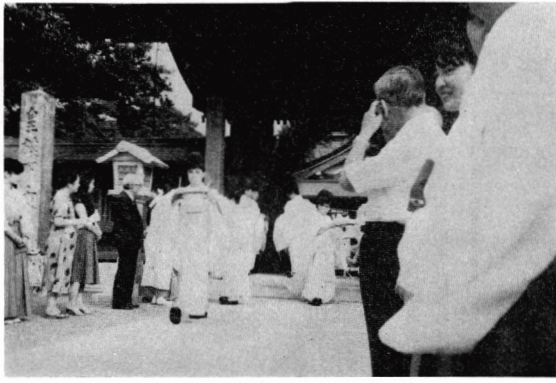
昭和五十六年

大祓式・夏越のまつり

茅輪くぐり・人形流し

去る八月三十一日
夏越の大祓が、ようやく始まり
めな午後五時より夏越の大祓が執
行された。

この夏越の大祓は、朝霧を
あつたが、今日後大祓に出席
する者も少なくない。



この日大祓式は、午前四時
よりのかき半の間に、知事
知事犯した罪を謝罪し、清め
て夏越の暑さをめくつ、清め
しい心身で残る半年を、一たため
の祭りである。

当日は早朝より地元の総代さん
たちの手によって、青竹とした茅
輪が神門に飾りつけられ、その前
には紅白の人形を納めた唐櫃と
各種の後の具が供えられた。

この人形は大祓式にききつて
郡内の氏子の友をほめ、全国
各地の崇敬者から、紅には女
性・白には男性と、それぞれ氏名
と年令を書き、身体を撫でて、息
を吹きかけ、半年間の罪を託し
たのである。つまり人形は各自
の身替りであるといえる。この
ため人形は神物とされ、物ともは
れない。

定刻午後五時、準備の整った後
門前、神職、巫女並に一般の人
々が参列し、お祭は先ず、参列者
に大祓詞を宣う。おまかせ、引き続い
て、全員に手渡された切腹紙に
各自、自らがされた行い、続け
て「被物」という麻布を参列者各自

が、三度に分けて裂き、大祓で全
員を後つた後、大祓所後を先頭に
全員が、「みなづきの夏越のまつり
する人は、玉歳の命延かいうな
り」という歌歌(他二歌)を唱和
しながら、茅輪を三度漕いだ。
このように何重にも罪を消滅さ
せ、その後、拜殿へ移り、宮司祝
詞を唱へ、手紙を書き、真神を
持つ巫女(巫女)が、唱歌、箏、
箏、笛、三ッ子、餅餅雨の
中、優雅に夏越舞を奉納した。又
郡内を始める崇敬者から送ら
れた紅白人形は、夏越の長い黄昏
時に、釣川や玄海の大海へと流
され、今年の夏越の大祓は無事終
了した。

【御礼】
当大祓所の夏越祭神事
行に当りましては、郡内氏子
各位並に全国崇敬者の皆様より
各位に、多数の人形をお寄せいただき、
お蔭を以てしまして、祭典に
にも恵まれ、御礼申し上げます。
に進行致すことが出来まし
た。

宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

雅楽・舞講習

盛夏の特訓に流汗

今年も盛りだくさんの強い八月三日
八月五日までの三日間、当社恒
例の雅楽講習が行われた。
今年も昨年の夏と違い、毎日
うらやましい中、宮内庁楽
部、弘音のひろや、楽長
補、乃木雅楽会、長秋山、お
さまたかひ、岡氏の指導にあ
たり、管を中心として、舞、歌等を
受講した。

連日、午前時より午後時
まで先方の厳しい指導の中、特訓
に汗を流し、時のつらさも忘れ
て、講習に専念した。

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位



最後の三管合奏では、平調音
取、越天楽、五管奏、皇樂急の
順で全員合奏を行い、無事講習
を終了した。

新旧演劇の持つ心と命

一九三〇年代以来、資本主義
から神社の放生会の解散も、私
に一般的に傾ける傾向として
て、専門家は次の点を挙げて、
る。経の中で良の役割を担
り、その中で非市場経済組織が
大さくはなす。

また若い演劇が演劇の舞に
まじり、心算かれること
も、旅路に究つて心算も全の無
苦しみとのみ多き「この心算」
がある。放浪記めし等の作
共、戦後の青年層、よく親ま
れたと記憶する。

近代の非情も加わって、昨今は
テレラジオのニュースが非情
を求め、報道するに足る。だ
り、時代の手情が、

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

残筆しがらみ草紙

玄陽隠士

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

【御礼】
宗像大社
宮司 藤澤清之
崇敬者各位

残暑御見舞申し上げます



みなとタクシー
株式会社

代表取締役 古野 浩
宗像市大字土穴
宗像営業所 (0940) ③ 133-1
玄海営業所 (0940) ② 222-2

新星交通有限公司

代表 森 義久
宗像市大字東郷
東郷営業所 (0940) ⑥ 211-38
赤間営業所 (0940) ② 303-8
神湊営業所 (0940) ② 001-0

宗像西鉄タクシー
株式会社

代表取締役 筑紫 稔
支配人 熊谷 実
宗像市自由ヶ丘二一七三
TEL (0940) ② 411-1

宗像グリーンタクシー
有限公司

代表 山根 公雄
宗像市大字河東一三二二
TEL (0940) ③ 333-03

